

事務事業名		市コミュニティバス事業		☒ 実施計画登載事業	☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間		
	施策名	03 交通連携を支える交通・情報ネットワークの充実		☐ 単年度のみ		
	基本事業名	02 公共交通機関の利便性維持と利用促進		☐ 単年度繰返 (開始 年度～)		
根拠法令		-		☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 24 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		
所属	部課名	商工港湾部企業立地港湾課		全体計画(※期間限定複数年度のみ)		
	課長名	佐々木 義久				
	係名	港湾振興係	電話			0192-27-3111
	担当者	山岸健悦郎	内線			117
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						
市の将来を見据えた持続可能な公共交通体系の実現のを目指し、平成25年度に策定した市総合交通ネットワーク計画に基づき、市内の公共交通網を再構築するために、市民の移動手段の確保に向けたコミュニティバス等の実証試験運行を実施 平成26年度には、市内4地区(吉浜・越喜来・末崎・日頃市地区)において、コミュニティバス実証試験運行を行い、各種データ収集を行い、平成27年度は、デマンド交通・患者輸送バス一般乗車・タクシーチケット配布の実証実験を実施し、各種データの収集を実施したところであり、実証実験の結果を踏まえ、将来のあるべき公共交通の形態について検討していく。 平成27年度実証実験実施状況 デマンド交通実証実験 日頃市地区 H27.10～H28.3 患者輸送バス一般乗車実証実験 三陸町綾里・越喜来地区(H27.11～H28.3) タクシーチケット配布実証実験 盛・大船渡・末崎・赤崎・猪川・立根地区(H27.11～H28.3) ※75歳以上の高齢者で、運転免許がなく、最寄のバス停から500m以上はなれたところに居住するもの						
総投入量 (千円)		事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称 単位	
地域単位での公共交通意見交換会、市地域公共交通会議の開催、コミュニティバス等実証試験運行		ア	市地域公共交通会議、意見交換会開催回数 回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	平日1日あたりコミュニティバス等実証試験運行本数 本
市地域公共交通会議の開催、平成27年度の実証試験結果を踏まえて、引き続きデマンド交通、タクシーチケット配布等を実施予定。		ウ	コミュニティバス等実証試験運行実施地区数 地区
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・市民 ・交通事業者		名称 単位	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ	年度末の市民総人口 人
・コミュニティバス等を利用し、交通移動を容易にする。 ・市民の通院・通学・買い物等の移動手段の利便性向上等を図るとともに、各種の交通手段の利用の促進にも繋げる。 ・日常生活を支える最低限の交通サービスが確保される。(確保してもらう。) ・迷わず利用しやすい交通環境が実現される。(実現してもらう。)		キ	市内の公共交通事業者数 事業者
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		ク	
利用者の利便性に配慮して運行する。		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称 単位	
		サ	コミュニティバス等年間利用者数 人
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円		12,886	9,553	30,934	13,071	20,745
		一般財源	千 円		3,240	3,033	8,443	3,213	5,187
	事業費計 (A)		千 円	0	16,126	12,586	39,377	16,284	25,932
	人件費	正規職員従事人数	人		1	6	6	6	6
		延べ業務時間	時 間		100	600	600	700	700
		人件費計 (B)	千 円	0	400	2,400	2,400	2,800	2,800
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	0	16,526	14,986	41,777	19,084
⑤活動指標		ア	回	-	3	19	18	4	5
		イ	本	-	0	10	44	16	16
		ウ	地区	-	0	1	4	8	8
⑥対象指標		カ	人	-	39,117	38,871	38,712	38,349	38349
		キ	事業者		5	5	5	5	5
		ク							
⑦成果指標		サ	人	-	0	31	3,875	334	400
		シ		-	0	0	0	0	-
		ス		-	0	0	0	0	-

事務事業ID	1463	事務事業名	市コミュニティバス事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

東日本大震災後、住まいや各種施設等の街並みが変化し、市民の移動の動線等も変化した。三陸鉄道、路線バスの運行状況が変化し、新たにJR大船渡線ではBRTの運行が開始され、現在や将来のまちづくりに合わせた交通体系の再構築が必要となり、三者の共存を図りつつ、市民にとって利用しやすい移動手段が求められた。
このため、将来を見据えた持続可能な公共交通体系の実現を目指し、平成25年度に「市総合交通ネットワーク計画」を策定した。併せて「将来のあるべき公共交通の形態」を検討するため、復興交付金の効果促進事業を活用して、平成26年3月より、コミュニティバス実証実験運行を開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

新規事業のため、事業開始時期からの変化はない。市総合計画前期基本計画策定時には、計画していなかった実証実験運行が、東日本大震災の被災後創設された復興交付金の効果促進事業による有利な財源を活用して、可能となった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

市民からは、利用しやすいコミュニティバスの運行に期待する声が多い。議会においても、市民の交通手段の確保に注目している。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	幹線軸である公共交通機関との連結についても目的としており、公共交通機関の利便性維持と利用促進に繋がる事業であることから、整合している。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	利益を目的とした民間事業者では、実証実験運行の取り組みが難しい。国の認可を伴う事務があり、自治体が行う場合、許認可の事務が簡素化されている部分があるため、関与することが妥当である。 また、現状のままでは路線バスの赤字路線の廃止につながりかねないため、その対策を検討しておく必要がある。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	コミュニティバスは、広く市民の移動手段の確保・交通不便地帯の解消を主目的としているが、地域にとってどのようなやり方が適当かを考える必要があり、場合によっては利用者登録制についても検討が必要である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	定時定路線としての地域内循環では需要がないため、日頃市地区デマンド交通については目的地を限定して市内中心部への移動可能としたところである。 また、患者輸送バス一般乗車についても診療目的以外の利用が見られたところであり、今後、さらに地域に見合った形での実証実験に取り組む予定であり、成果の向上が見込まれる。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	コミュニティバスによる既存の公共交通を補完することの期待が出来なくなる。 赤字路線バス問題等への対応のためにもコミュニティバスの実施は有効であり、廃止することになれば、交通不便地帯の切捨てにもなりかねない。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	市内路線バスは主な路線を運行しているが、交通不便地域への運行は利用状況や道路状況によりむずかしい。また三陸町地区においては、既に患者輸送バスを活用した実証実験を実施している。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	デマンド交通においては、定時定路線のコミュニティバス運行と比較して、大幅に事業費が削減できている。 これ以上の事業費の削減は、今後の最適なコミュニティバス運行計画の策定に係る各種データ収集の機会を減らすことになり、好ましくない。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	市総合交通ネットワーク計画、コミュニティバス実施事業及び実証実験運行計画の策定業務を民間事業者に委託して、人件費の削減を図った。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	市民の移動手段を確保することは、行政の役割の1つである。利用者を制限する予定はない。ただし、デマンド交通等実証実験においては、利用者に対する条件は必要となる。 利用料金については、実施予定地域との懇談を踏まえ、今後地域公共交通会議で協議する。	

事務事業ID	1463	事務事業名	市コミュニティバス事業
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成25年度に策定した交通ネットワーク計画に基づき、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、コミュニティバス等実証実験運行を実施した。 平成26年度の結果から、より地域の実情に見合った実証実験として、27年度は日頃市地区デマンド交通、三陸町綾里・越喜来地区患者輸送バス一般乗車、盛・大船渡・末崎・赤崎・猪川・立根地区においてタクシーチケット配布の実証実験を実施。 今後もさらに地域の特性を踏まえた実施が必要。																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 大船渡地区におけるコミュニティバス利用対象者の多くは、市内中心部への移動を求めていることから、県交通バス等との競合を避けつつ、地域の実情に見合った交通体系の導入が必要であり、デマンド交通・タクシーチケット等の実証実験を実施し、また、三陸地区においては、既存資源である患者輸送バス等の一般乗車を実施した。 大船渡地区と三陸地区の格差是正については、地域的な特性もあるため、地域の実情に見合った交通体系を導入することで理解を得られていくように努める。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 平成26年度に実施他コミュニティバス実証実験結果により、大船渡地区、三陸地区それぞれにおいて課題が判明した。 大船渡地区においては、市内中心部への移動を求めていることから、既存交通機関との競合を避けつつ地域の実情に見合った形での実験を行う。 三陸地区においては、既存交通資源である患者輸送車等との競合が判明したことから、患者輸送車等への一般乗車を実施。 大船渡地区と三陸地区の格差是正については、地域的な特性もあることから、大船渡地域はデマンド交通やタクシーチケットの導入、三陸地区は患者輸送車等への無償一般乗車といった形の、それぞれ地域ごとの交通体系の確立が必要。 さらに、将来的には、移動手段を持たない高齢者を地域で支える「相乗り支援制度」についての仕組みづくりが必要。																								

2次評価者	企業立地港湾課	佐々木 義久
-------	---------	--------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合		(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 ・平成25～27年度のコミュニティバス実証実験結果を踏まえ、今後、地域の実情にあった実証実験運行を実施することにより成果の向上が期待できる。																				
① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている		② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・平成25年度に策定した市総合交通ネットワーク計画をベースに、平成27年度に「地域公共交通網形成計画」、「地域公共交通再編実施計画」を策定し、「地域公共交通再編実施計画」について、国の認定を受けることにより、28年度以降の地域内フィーダ補助等、当該計画に基づく事業の実施に対して支援を受けられるよう事務を進める。 ・また、自家用車を持たない高齢者等を地域で支える有償ボランティアによる「相乗り支援制度」について、その仕組みづくりを含めた導入を検討していく。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
